

## 第16回全国高等学校情報教育研究会全国大会（東京大会）

第16回全国大会（東京大会）事務局  
東京都立神代高等学校主任教諭 稲垣 俊介

### 1. 大会の概要

第16回全国高等学校情報教育研究会全国大会（東京大会）は、「情報科の挑戦～授業実践と大学入試～」を大会テーマとして、2023（令和5）年8月9日（水）と10日（木）の2日間、工学院大学新宿キャンパスで開催された。日程の概要は、以下の通りである。

#### ■第1日目 2023年8月9日（水）

- 9：30～受付
- 10：20～10：40 開会行事  
来賓祝辞 江川徹氏（東京都教育庁）  
蒲池みゆき氏（工学院大学副学長）
- 10：40～11：15 ライトニングトーク
- 11：20～12：20 基調講演  
演題「情報教育の今日的な役割と課題」  
堀田龍也氏  
（東北大学大学院情報科学研究科教授・東京学芸大学大学院教育学研究科教授）
- 12：20～13：30 休憩
- 13：30～14：30 分科会（セッション1・2）
- 14：30～15：30 ポスターセッション/企業展示
- 15：30～16：30 分科会（セッション3・4）
- 17：00～19：50 懇談会（工学院大学新宿キャンパス食堂ホール）

#### ■第2日目 2023年8月10日（木）

- 8：30～受付
- 9：00～10：00 分科会（セッション5・6）
- 10：00～11：00 ポスターセッション/企業展示
- 11：00～12：00 分科会（セッション7・8）
- 12：00～13：00 休憩
- 13：00～14：00 分科会（セッション9・10）
- 14：15～15：15 講演  
演題「情報科における学びの充実に向けて」  
田崎丈晴氏  
（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官（併）文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課/教育課程課情報教育振興室教科調査官（併）文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官）
- 15：30～16：00 閉会行事

第13回から第15回までの3年間はオンライン大会であったが、本大会は4年ぶりの現地開催となった。そのためか、申し込みと当日参加者、協賛団体参加者を合わせて全国から562名が参加し、これまでの大会と比較して最大規模の大会となった。プログラムは、基調講演1件、講演1件、分科会発表30件、ポスターセッション20件、企業展示23件であった。

### 2. 開会行事

開会の言葉は全国高等学校情報教育研究会事務局小松一智氏（東京都立小平高等学校指導教諭）が述べ、全国高等学校情報教育研究会会長の福原利信氏（東京都立田園調布高等学校校長）が挨拶した。続けて、来賓祝辞を江川徹氏（東京都教育庁総務部教育政策課情報企画担当課長）と蒲池みゆき氏（工学院大学副学長）から頂戴した。

### 3. 基調講演

基調講演は堀田龍也氏（東北大学大学院教授・東京学芸大学大学院教授）による「情報教育の今日的な役割と課題」であった。学びの大きな変化やGIGAスクール構想による影響について、情報活用能力の意義の再認識と現状の課題が示された。

### 4. 講演

講演は田崎丈晴氏（文部科学省・国立教育政策研究所）による「情報科における学びの充実に向けて」であった。学びの専門性向上としての発表・交流の重要性、高等学校における情報教育の今後の方向性や事例の共有の重要性が語られた。

## 5. 分科会発表 30件

分科会発表は全部で30件行われ、各テーマに沿って多岐にわたる研究や事例、取り組みが発表された。以下にその一覧を示す（敬称略）。

- 情報科らしい授業方法と授業改善：佐藤義弘（東京都立川高等学校）
- 質的データを用いたデータサイエンス授業実践～総合的な探究の時間と情報Ⅰの接続～：林宏樹（雲雀丘学園中学校・高等学校）
- 試作問題「情報Ⅰ」と探究力―受験結果の分析と情報教育の未来形―：藤岡健史（京都市立日吉ヶ丘高等学校）
- 専門教科「情報」を受け持った3年間の取り組み：山本博之（東京都立若葉総合高等学校）
- 大学入試を見据えた「データの活用」の実践の検討～これまでの実践の報告とこれからの実践の提案～：稲垣俊介（東京都立神代高等学校）
- 短時間の動画を活用した授業―授業時間をどのように確保し、授業では何を行うか―：春日井優（鹿児島県立鶴丸高等学校）
- 大学入学共通テストを意識した情報Ⅰの授業実践：能城茂雄（東京都立三鷹中等教育学校）
- 生徒がプログラミング言語を選択する新しい授業形態の提案：井手広康（愛知県立小牧高等学校）
- 単元の導入の協働学習の授業デザイン～ソーシャルリーディングのプロンプトエンジニアリング～：須藤祥代（千代田区立九段中等教育学校）
- 情報ⅠにおけるPBLを取り入れた問題解決能力の育成：鎌田高德（神奈川県立横浜国際高等学校）
- 高等学校における情報活用能力の育成～中核となる教科情報科～：肥田真幸（文部科学省初等中等教育局GIGA StuDx推進チーム）
- 一人1台端末を用いたCBT定期考査：椋本哲也（東京都立小岩高等学校）
- 受け手と指示対象に着目した情報デザインの授業実践：三輪理人（愛知教育大学教職大学院）
- 校内の情報デザインに関わる問題を生徒と一緒に解決してみた：長谷川友彦（近江兄弟社高等学校）
- 試作問題「情報Ⅰ」の出題形式を援用した論理回路に関する授業の取り組み：吉田拓也（東大寺学園中学校・高等学校）
- 大学入学共通テスト対策を考慮した情報Ⅰやっています。：太田剛（昭学院高等学校）
- 高校生の自撮り写真におけるソーシャルメディア投稿と承認欲求の関係について：朱文昌（東京都立世田谷総合高等学校）
- 身近なものから学ぶデジタルの授業：真田和樹（兵庫県立東灘高等学校）
- 尺度という概念を手に入れることで各単元の学びを

一段階深めることができる：森本岳，牛尾祐人（京都産業大学附属中学校・高等学校）

- 情報Ⅰを1年間行い、観点別評価をしてみても考えた事：辻誠一（私立関西創価高等学校）
- Monaca EducationとProgulでPythonを学んだ後のアンケート結果比較：谷川佳隆（千葉県立船橋啓明高等学校）
- 情報Ⅰにおけるプログラミングの授業～思考力・判断力・表現力を意識した授業方法～：篠田剛史（市原中央高等学校）
- 授業実践：Python & DNCLを用いた典型的なアルゴリズムの解説と実装：鈴木淳子（愛知県立一宮高等学校）
- どうする？単元「プログラミング」の1時間目：田中健（愛知県立高蔵寺高等学校）
- 高専生によるアクティブ・ラーニングを取り入れた情報セキュリティ教育の実践：守山凜，川戸聡也（米子工業高等専門学校），佐々木章人（鳥取県立米子東高等学校）
- Python・DNCL・C言語同時提示によるプログラミング論理教育の提案およびその実践：北山浩司（和歌山県立紀北工業高等学校）
- コンピュータとプログラミングに関する授業実践報告：富田平（埼玉県高等学校情報教育研究会）
- 「とどらん」でデータサイエンスの授業：岡本弘之（アサンプション国際高等学校）
- ビクトグラフ生成でデータ活用とデザインを試行錯誤させる授業法の実施と検討：御家雄一（東京都立南多摩中等教育学校）
- 重回帰分析の学習を可能にする授業教材の提案：岸本有生（大阪電気通信大学高等学校）

多くの発表者からの具体的な取り組みや研究結果が報告され、活発な質疑応答や意見交換が行われた。参加者からは非常に有意義なセッションであったとの声が届いた。

## 6. ポスターセッション 20件

ポスターセッションは全部で20件発表された。各研究の内容は幅広く、高校の情報教育に関する新しい取り組みや実践的な研究結果が多く見られた。参加者は各ポスターの前で活発な議論を交わし、情報教育の最前線での実践や研究の方向性について深く知ることができた。以下にその一覧を示す（敬称略）。

- 2025（令和7）年度からの大学情報入試：中野由章（工学院大学附属中学校・高等学校）

- フォントのデザインに挑戦：木村文彦（福井県立美方高等学校）
- 一人一台端末導入後の授業設計の変化：勝山衿佳（大阪府立夕陽丘高等学校）
- SSH指定校における情報Ⅰの扱い：山上通恵（お茶の水女子大学附属高等学校）
- 情報Ⅰにおける「データの活用」の学習を目的とした統計図表生成アプリケーション「ピクトグラフィング」：高橋伶奈（青山学院大学）
- 生徒と人型ピクトグラムが共に躍動！驚きのアプリケーション群が情報Ⅰの授業を劇的に転換：伊藤一成（青山学院大学ピクトグラム研究所）
- 高校と高専における情報教育の比較と展望：川戸聡也，守山凜（米子工業高等専門学校）
- 授業や自習で利用可能なプログラミング問題練習サイト：鳥袋舞子（大阪電気通信大学）
- 入門から大学入試までを考慮したプログラミングの学習段階の検討：兼宗進，漆原宏丞（大阪電気通信大学）
- 教科書需要数に基づく高等学校情報科の教育状況調査：赤池英夫（電気通信大学）
- 電気通信大学入学者選抜における科目「情報Ⅰ」の取り扱い：渡辺博芳，小宮常康，中山泰一（電気通信大学）
- ビジュアルプログラミングは、テキストプログラミングの学習に生かされている？～授業内アンケートによる探索的検討～：堺和貴子（相模女子大学中学部・高等部）
- Webアプリ「課題取組状況確認」の開発：長谷川友彦（近江兄弟社高等学校）
- 大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討：植原啓介（慶應義塾大学），西田知博（大阪学院大学），谷聖一（日本大学），安田豊（京都産業大学），坂東宏和（獨協医科大学），高橋尚子（國學院大學），角田博保（電気通信大学），萩原兼一（大阪大学）
- 「情報Ⅱ」ははじめました。：千葉緑，朝比奈岳彦，高谷真弓，宮口拓也（東京都立六本木高等学校）
- シミュレータ教材ProtoSimを活用したTCP/IPの仕組みと重要性を体験的に学ぶ授業の提案：北村祐稀，長瀧寛之（大阪大学），井手広康（愛知県立小牧高等学校），兼宗進（大阪電気通信大学），白井詩沙香（大阪大学）
- Pythonの指導におけるアルゴリズム実装とモジュール・ライブラリ活用に関する省察：布村覚（東京都立日野高校）
- 共通鍵暗号・公開鍵暗号方式を各生徒のスマホとPCを使用して体感的に学習できるWebアプリBOUCHOを使用した実践：御家雄一（東京都立南多摩中等教育学校）
- 回帰分析の結果から問題解決を考える授業：畑英利（岡山県立岡山一宮高等学校）

- データで見る高校生のコンピュータ活用と意識の変化（2023年度版）：小原格（東京都立町田高等学校）

このような多岐にわたるポスターセッションが提供されたことで、参加者は情報教育の最新の動向や実践的な教育方法を学ぶことができた。

## 7. 企業展示 23件

情報教育に関連する企業等23団体が展示を行い、その中には有用な教育技術やツール，教材の展示などが含まれていた。参加者は各ブースでの説明や実際に教材を確認することができるなど，実践的な学びの場として非常に有意義であった。

## 8. 閉会行事

大会実行委員会からの挨拶として、第16回全国大会（東京大会）実行委員会事務局長の稲垣俊介（東京都立神代高等学校主任教諭）が言葉を述べた。次に、次期開催地からの挨拶として愛知県高等学校情報教育研究会会長、全国高等学校情報教育研究会副会長の阿部孝広氏（愛知県立一宮高等学校校長）が登壇した。最後に、閉会の言葉として神奈川県高等学校教科研究会情報部会部会長、全国高等学校情報教育研究会副会長の柴田功氏（神奈川県立希望ヶ丘高等学校校長）が述べた。

## 謝辞

本大会は、実行委員長である福原利信会長をはじめとする21名の委員の献身的な努力に支えられた。委員の尽力により、長い時間をかけての大会準備と大会当日の運営が実現した。

私自身は大会事務局長としての運営経験が浅く、大会準備についてほぼ何も知らない状態でのスタートであったが、経験豊かな委員の支援と励ましにより、本大会を成功に収めることができた。基調講演や講演をいただいた堀田龍也氏と田崎丈晴氏，発表者の方々，協賛企業・団体の方々，そして参加して下さった方々に、心より感謝申し上げるとともに、次回開催地である愛知大会の盛会を祈念する次第である。